

パフォーマンス・コンサルティング・ワークショップ

～戦略と人材開発の連動は事業・人材開発ニーズの把握から～

■ パフォーマンス・コンサルティングと人材開発

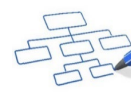
パフォーマンス・コンサルティングは人材開発の仕事の流れでいうと最も上流です。

成果の高まる人材開発の仕事の流れ



■ パフォーマンス・コンサルティングとは

経営幹部や事業部の育成担当から相談されるときに、戦略と研修を連動させるヒアリングのコツ、ヒアリングした人材の課題を事業の視点で図解するコツを整理したものです。



パフォーマンス・コンサルティング

©2022-2023 株式会社ヒューマンパフォーマンス

■ なぜ人材開発に必要か？

人材開発担当の仕事の最も上流であることであり、この時点で「人材開発の成果レベル」が決まってしまうからです。

たとえば、右のAかBか方向性を決めるということです。

A

- ・ 社内コンサルタント的に事業部の戦略遂行を支援する
- ・ 事業戦略のKPIの改善に役立つ研修

B

- ・ 関係者のイメージどおりの研修スペックを実現する
- ・ 研修満足度は非常に高いが、成果があいまいな研修

ATD 2019 ケイパビリティ 重要度上位7項目

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. コミュニケーション | 5. EIと意思決定 |
| 2. 生涯学習 | 6. パフォーマンス改善 |
| 3. インストラクショナルデザイン | 7. コンサルティング・パートナー |
| 4. デリバリとファシリテーション | ング |

■ どんな悩みを解決できるのか？

現状のお悩み（例）

- ・ 研修の企画理由が抽象的で、現場の悩みを掘り下げて聞いていない
- ・ 事業部のヒアリングが浅く、現場で聞いたまま「〇〇の知識・△△のスキル不足」ととらえている
- ・ 事業部の育成課題の背景にある戦略、KPI、人と組織を俯瞰して人材開発ニーズを把握していない

受講後の部門イメージ（例）

- ・ 事業・人材・職場の課題の関連性を図解できるようになる
- ・ 事業部ヒアリングで、育成課題と事業の関連性を掘り下げて質問できるようになる
- ・ 現場で出た研修イメージの妥当性を一緒に議論できるようになる

■ なぜできるのか？

- ・ 社内コンサルティング（パフォーマンス・コンサルティング）の進め方が4フェーズ、8ステップで整理されている
- ・ 人材開発担当が活用しやすいGAPS!マップ、幹部ヒアリングの質問などの具体例がある
- ・ ツールや質問の原則を使えば、人材開発部内で考え方や用語を統一できる
- ・ 実践テキスト『パフォーマンス・コンサルティングⅡ』がある



■ プログラム例 (対面でもオンラインでも対応可能です)

- 学習目標 パフォーマンス・コンサルティングの主要モデルやフレームを実務で使えるようになる
 - 対象 企業内の人事・人材開発の管理職・担当、事業ラインの育成担当、HRBP
 - 講師 鹿野尚登『パフォーマンス・コンサルティングⅡ』記者
- * 事前課題があります (実践につなげるための素材として、当日の演習で活用します)
 * テキストとして『パフォーマンス・コンサルティングⅡ』@3,630円を各自で手配していただいております
 * 研修会社、コンサルタントの方はお断りしています

第1回 知識理解

13:00	オリエンテーション 従来の人材開発の前提を見直す ・ 演習 1 営業部長の相談 ・ 演習 2 業績の改善要因 ・ 演習 3 自分の業績改善
14:00	成果を高める人材開発のフレームを持つ パフォーマンス・コンサルティングとは 施策の効果を高める仕事の進め方 休憩 (10分) ・ 演習 4 ニーズの階層構造
15:00	・ 演習 5 GAPS! マップ 解説 パフォーマンス現状分析の流れ 休憩 (10分)
16:00	フレームを活用した効果的な質問の進め方 ・ 演習 6 リフレーミングの質問 解説 リフレーミングの質問 解説 ACT (接点・信用・信頼) ふりかえり・まとめ・次回課題

第2回 実践練習

オリエンテーション パフォーマンス・コンサルティングのフレームを 自社の状況に活用する ・ 演習 7 自社のGAPS! マップ ペア検討
休憩 (10分) ・ 演習 8 ヒアリングロールプレイ ロールプレイ1回目 (ペア相手の部門)
ロールプレイ 2 回目 (自担当の部門) 休憩 (10分) ・ 演習 9 担当幹部のニーズ仮説整理
パフォーマンス部門への移行事例 ・ 演習 10 ヒアリングするときの情報源 今後の実践のために ふりかえり・まとめ

■ 特徴

- ・ 「解説→演習→解説→ふりかえり・質疑」を繰り返し、理解を深めていく設計にしています
- ・ 自社の状況を学習したフレームで整理するなど、職場に戻ってすぐに活用できるように設計しています
- ・ 企業内実施の場合は、各社のご要望に合わせてアレンジは可能です

■ 実績

パフォーマンス・コンサルティング

196社 876人

* 慶応MCC、JMA、ラーニングバーなど
出講実績含む

企業内実施 平均17.0人/回

人材開発担当向け 研修実績

468社 1489人

(2025年現在)

受講者の声

本研修はビジネスパートナーリングの基本スキル向上にとっても役に立つと思いました。他の部員にも受講させたいと感じました。

フレームと流れ、進め方をパートナーリングで実践していきたいと思います。また、部門責任者へのパートナーリングに質問の切り込み方 (オープンエンド、GAPS!) を活用したいと思います。

あいまいだった点と点のつながりが明確になり、少し自信を持ってクライアントに対応できると思います。

今後、GAPS! を使ってヒアリング・コーチング・コンサルティングを実践します。すべての研修依頼、相談案件、自チームでの問題解決、などの場面で活用しようと思っています。

人材育成部門としては不可欠なスキルだと思います。

	人材開発担当向け研修コース内容	時間目安
人材開発の基礎を固めたい	パフォーマンス・コンサルティングの基本 ～事業・人材開発ニーズの把握のコツ～	対面クラス：1日 オンライン： 4時間×2回
	研修企画・設計の基礎研修 ～学習コンテンツと全体構成の決め方のコツ～	対面、オンライン 4時間、1日
	研修効果測定の基本知識 ～よくある研修効果測定の失敗をしないためのコツ～	対面、オンライン 4時間、1日
基本から最新の動向までざっくりとをおさえたい	研修企画・設計の実践 ～担当講座をIDで再設計しよう～ 再設計1 担当研修の基本構造 再設計2 学習モジュールの見直し 再設計3 担当研修の再設計	対面クラス オンライン 3～4時間
	上流から設計する研修効果測定 第1回 研修効果測定の基本知識 第2回 最初に研修成果を定義しよう 第3回 研修内容を職場で活用した成功事例を報告しよう 第4回 ROI勉強会-1 レベル3・4データの収集計画 第5回 ROI勉強会-2 ROIのデータ分析計画	対面クラス オンライン 3～4時間
	人材開発のビジネス支援を高める基本 第1回 事業成果に貢献する人材開発部門になる 第2回 オンライン研修時代の人材開発の変化と部門経営 第3回 研修成果を高めるために－最初に研修成果を定義しよう	対面クラス オンライン 3～4時間
	オンライン研修時代の研修転移 第1回 研修転移の4つのモデル 第2回 オンライン研修時代の研修転移の設計	対面クラス オンライン 3～4時間
	はじめての人材開発担当 ～人材開発担当の仕事の仕事の全体像をつかもう～	リクルートマネジメント スクール公開講座 オンライン 3時間

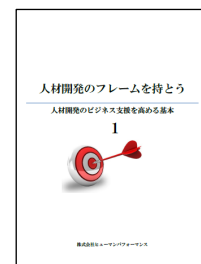
- ・ ご関心のあるコースについて、下記までお問い合わせいただけますと、詳しい情報を送付いたします。
- ・ 時間目安はご参考です。「情報提供レベルでよい」「きちんとスキル化したい」など、貴社が期待される学習目標や到達レベル、また、参加者人数によって実施時間や方法は変わります。
- ・ 詳しくは貴社のご要望を承り、設計致します。対面、Teams、Zoomなどで実施しています。

* 研修会社、コンサルタントの方はお断りしています



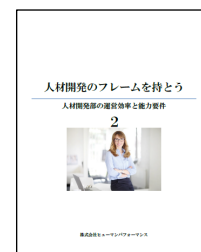
人材開発のフレームを持とうー 1 ～人材開発のビジネス支援を高める基本～

- 1章 事業成果に貢献する人材開発部門になる
- 2章 人材開発の基本としてのパフォーマンス・コンサルティング
- 3章 コロナ後の人材開発の基本－ATD Handbook 2022
- 4章 人材開発の仕事を見直す本と動画
- 5章 パフォーマンス・コンサルティング+インストラクショナルデザイン



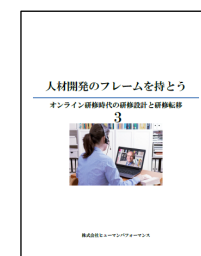
人材開発のフレームを持とうー 2 ～人材開発部の運営効率と能力要件～

- 1章 事業指標と研修指標と人材開発部門の経営 2020
- 2章 日米の人材開発調査-ATD Industry Report 2018と比べてみよう
- 3章 ATD 2019ケイパビリティモデルーこれからの人材開発担当
- 4章 これからの人材開発責任者（CLO）に求められる役割
- 5章 The Chief Learning Officer（2007）で印象に残った17人のCLOの言葉



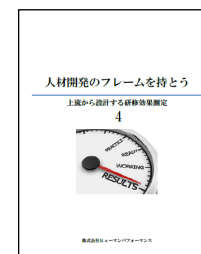
人材開発のフレームを持とうー 3 ～オンライン研修時代の研修設計と研修転移～

- 1章 オンライン研修時代の人材開発の4つの変化 2020～2021
- 2章 オンライン研修設計の実務に役立つ本・動画
- 3章 研修成果を高めるためにー最初に研修成果を定義しよう
- 4章 研修転移のモデルと事例をみてみよう-6Ds 2014～2015
- 5章 研修転移の進展-ラーニングジャーニーとチャットボット 2019



人材開発のフレームを持とうー 4 ～上流から設計する研修効果測定～

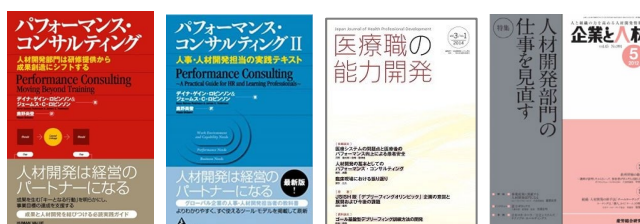
- 1章 研修効果で悩む「前提とパターン」を変えよう
- 2章 研修効果測定の4つの事例をみてみよう 2006～2021
- 3章 研修効果測定のカークパトリックの新4レベル (2016)
- 4章 研修効果測定のルーチンにしようーサクセスケースメソッド
- 5章 研修効果測定 フィリップスのROIモデルの変化 1997～2023



■ 人材開発担当者向け研修実績

人材開発担当者向け研修実績	468社	1489人
パフォーマンス・コンサルティング	196社	876人
研修企画・設計の基本	201社	310人
企業内実施 平均受講者数	16.0人/回	

■ 翻訳・論文・解説記事



※ 2025年現在、慶応MCC、リクルートマネジメントスクール、JMAなど、出講実績も含む